

公益社団法人日本天文学会 代議員総会議事録

日 時：2013年9月11日（水） 11:30-12:30

場 所：東北大学秋季年会会場（川内北キャンパス B101 講義室）

出席代議員：岡村、海部、奥村、田村、小久保、半田、梅村、吉田（道利）、馬場、井上、
吉川、福井、佐藤、牧島、縣、櫻井、芝井、富阪、長尾、（以上 19 名）

欠席代議員：渡部、柴田、常田、河合、望月、市川、杉山、観山、土居、太田、山田、林、
寺澤、吉田（直紀）、藤沢、百瀬（以上 16 名）

また、中村・本原庶務理事、熊谷・松尾会計理事、宮田年会実行理事、茂山 PASJ 理事、
西野事務長が出席した。櫻井会長と奥村副会長は代議員を兼任している。

I. 確認事項など

議事に先立ち、出席者が 19 名で定足数を満たし、本会が成立することが確認された。また定款に基づき、以下のとおり議長と署名人の確認がなされた。

議 長：櫻井 隆

署名人：櫻井 隆

II. 報告

II-1 理事会（2013年9月10日）報告（中村）

9月10日に開催された理事会での協議事項や決議事項等について報告された。報告内容は以下の通りである。

開催中の年会はおおむね順調に進んでいる。特例社団法人時の事務所規程集（事務処理規程、経理規程、旅費規程、内地留学奨学金に関する財務規程、研究奨励賞基金に関する財務規程、早川幸男基金に関する財務規程、林忠四郎賞基金に関する財務規程の変更案と創立 100 周年記念出版事業基金に関する財務規程の廃止案）を公益社団法人移行に対応するよう修正を行い、修正案が理事会に諮られ、承認された。なお、就業規則、給与規程等の労使間の協議が必要な規程については、今年度中に改定を進める予定であることが説明された。学会の外部発信力を強化する目的で、学会のホームページの更新をネットワーク委員会を増員し、取り組みを始めたことが報告された。

II-2 開催中の年会について（宮田）

おおむね順調に進んでいる。講演総数は 752 件で前回の春季年会（埼玉大、679 件）より増えた。講演キャンセルが 4 件あり、4 件とも代読者もおらず、講演プログラムに穴が開いた。今後対策等を検討する。

II-3 学術会議関連報告（奥村）

大型計画提案の取りまとめが進んでいる。天文分野から 8 件の推薦があり、現在ヒアリングが進んでいる。200 件ほどの大型計画が提案され、25 計画を選ぶことを目標としている。天文学宇宙物理分科会で中規模計画の講演会を 5/28～29 に開催し、レビューを行った。現在、分科会でレポートを作成中である。

II-4 IAU 報告 (岡村)

IAU 分科会が 5/29 に開催され、新しいオブザーバが承認された。また新設された **astrochemistry commission** の **vice-president** に山本智氏が選出されている。**division steering committee** の選挙も行われ、日本人は ABCD の 4 つの **division** で 4 名 (細川、山岡、関口、高橋) 選出されたが、残り 5 つの **division** (EFGHJ) では日本人が一人も選出されていない。今後、積極的に IAU の活動に関与し、日本人のプレゼンスを高める努力が必要である。IAU からの電子メールが届かない日本人会員(70名)の調査を継続中である。IAU **strategic plan** (発展途上国に天文学を普及する目的の計画) の日本の取りまとめ役を山岡氏に依頼した。うるう秒廃止の議論が始まり、日本では細川氏が意見集約する予定である。学会が加入する国際団体の見直しが進められている。現在、45 団体で 6000 万円ほどの分担金を支払っているが、IAU は一番高く、680 万円ほどである。単に会議に出ているというだけでは学会での評価は低く、社会への還元というポイントが評価される。天文学分野では天文学会、IAU 分科会、学会宇宙物理学分科会がそれぞれ役割を棲み分けて活動し、コミュニティを支えているが、IAU 分科会の社会貢献は外部から見えない。IAU 分科会の社会貢献が陽に見えるように今後、積極的に活動する必要がある。

II-5 PASJ 報告 (資料 3 : 茂山)

学位論文のリポジトリ登録への対応について、次のように決定した。論文が PASJ で出版されてから 12 か月後に著者が機関リポジトリを通して **Post-print** を公開することを許可することとした。またオープンアクセス論文は出版 PDF を随時登録可能とする。OUP との契約を完了し、9/10 よりウェブ投稿システムに変更した。

II-6 第 3 期代議員選挙について (中村)

第 1 期代議員(17名)の任期が 2014 年 3 月 31 日で満了となる。そのため、今年度中に第 3 期代議員選挙を行うことになっている。選挙管理委員会、推薦委員会と意見交換し、選挙日程を決定した。9 月 20 日発行の天文月報 10 月号に代議員選挙の公示が掲載される予定である。開票は 12 月 9 日を予定している。選挙管理委員会、推薦委員会ともすでに今後のスケジュールを決定し、活動を始めている。

II-7 キャリアサポートについて (富阪)

博士号を取得した大学院生のアカデミックポストへの就職状況が厳しくなっており、また職も昔と比べて多様化している。そのため、若手のキャリアサポートを天文学会として考える必要がある。まず、学会として学位取得者の就職状況の追

跡調査を行うべきではないか。2010年に学術会議宇宙物理学分科会で作成した将来計画の冊子中に1999年から2009年までの10年間の就職状況調査の結果が公表されている (<http://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/kiroku/3-0319.pdf>)。それによると、約1/4が任期無しアカデミックポスト、1/4が天文以外の任期無しポスト、1/2がポストドクである。今後、天文学会でも就職状況の統計を取っていく必要がある。物理学会では、キャリアセンターを作って若手支援を行ったり、名古屋大学などでは学位取得者の就職支援を積極的に行い、成果が出ているようである。今後、他学会の活動なども調査し、天文学会でどのような形で若手支援が可能か検討していくのがよいであろう。現在、理事会で取組中の各種課題等の進捗状況を見ながら、キャリアサポート問題の学会としての取り組み体制の検討を始めた。

II-8 高校等における理科教育について（縣）

学術会議科学力増進委員会で高校に必修の理科をつくれないうという話題があった。これは、高校地学の先生の数がかなり少なくなり、地学教育が網羅的に実施困難な状況になるという背景も関係している。現在、地学分野で扱われている天文学の教育を存続させるためにも天文学会も学術会議科学力増進委員会に協力して欲しい。地学分野という小さな単位ではなく、理科という、より大きな単位で地学教育、天文教育、理科教育をどうしていくか議論する必要がある。

[資料リスト]

資料1 代議員総会出欠表

資料2 前回代議員総会(5月26日)議事録

資料3 学位論文の機関リポジトリ登録へのPASJの対応

2013年9月11日

議長：櫻井 隆 印

署名人：櫻井 隆 印